令和5年度 多摩市立多摩第二小学校 学校評価書

学校教育目標	
○考える子　◎思いやりのある子　○元気な子	
目指す学校像（学校経営ビジョン）	
○創意のある学校…子供が様々な体験を通して、確実に成長できる学校 ○信頼される学校…保護者・地域から親しみをもたれ、安心・安全な学校 ○活力のある学校…子供と教職員が明るく、生き生きとして、花と絵と音楽のある学校	
目指す子供像	目指す教師像
・確かな学力を身に付け、学習意欲の高い児童 ・互いの人権及び個人の選択や志向を尊重できる児童 ・社会性や自主性があり、自立心が高い児童 ・健康な心と体があることに感謝し、自身の健康の維持増進に向けて努力する児童	・誠実で心温かく、理想をもった教師 ・学校の運営者として責任をもって働く教師 ・家庭や地域と効果的に連携し教育活動を行う教師 ・ふれあい、高め合う教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

（1）確かな学力の育成

重点目標	○基礎・基本の確実な定着と問題解決能力の育成 ○持続可能な社会の創り手としての意識の醸成			
評価項目（目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
児童調査で「授業がよく分かる」の項目の肯定的評価を90%以上にする。	3	肯定的評価が89.6%とわずかに届かなかった。さらに分かりやすい授業に改善していく。	B	・様々な活動を制限なく行うことができ、充実した教育活動が行えていた。 ・学ぶことの楽しさをさらに実感させられるよう分かりやすい授業を追究してほしい。 ・児童主体の学びへと望む一方、学力向上に結び付く指導を期待する。 ・自己評価は適切である。
実体験を重視した問題解決的な活動を年2回以上実施する。	3	どの学年も様々な体験、校外学習、地域交流などを再開することができた。	B	
SDGsを踏まえたESDの視点に立ち、探究的な学習のための体験的な活動を年2回以上実施する。	4	探究的な学びを通して体感したことをイルミネーション点灯式やエコフェスタ、学習発表会で発信した。ESD実践動画入選。	A	
評価のまとめ	○コロナ明けで体験活動が復活し、教育活動がより充実した。 ○教師主導の「講義型」授業から、児童主体の「学び」へと変化しつつある。 △学力の向上にまでは結び付いていない。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

（2）豊かな心の育成

重点目標	○あいさつ等生活習慣の徹底と人権意識の向上、思いやりの心の育成 ○自己有用感を高め多様性を認め合う、いじめのない学校づくりの推進			
評価項目（目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
あいさつを通して互いの人権を尊重し、いじめ防止や思いやりの気持ちを育む働きかけを月1回以上実施する。	3	授業、研修、各種アンケートなど様々な取組を通してあいさつやいじめ防止について指導を繰り返した。継続して指導を行う。	B	・あいさつで心を通わせる気持ちよさを実感できるよう指導を継続してほしい。 ・いじめにつながりそうなことや陰湿な事件が起きていることから取組が成果に結び付いていない。 ・生活指導に関しては学年や学校全体で共有されていることに安心感を得ている。対応にも満足している。 ・自己評価は適切である。
児童調査で「あいさつをしっかりしている」「友だちと仲よくしている」の項目の肯定的評価を90%以上にする。	3	肯定的評価があいさつ84.1%、仲良く93.1%であった。いじめの未然防止に力を入れた。あいさつができるように指導を継続する。	B	
児童の指導について日常的に情報共有を行い、組織対応をする。（教員調査で肯定的評価を90%以上にする。）	4	どんな問題も自分事として考える。生活指導は即時、学校、学年で共通の指導を行った。教員調査は100%と意識が高い。	A	
評価のまとめ	○友達と仲良くしているという実感を児童も保護者ももっている。 ○児童の実態に応じて、迅速かつ人権に配慮し、組織的な対応を行っている。 △あいさつができる児童が増えたように感じているが、児童の意識はまだ低い。			

（3）健やかな体の育成

重点目標	○オリンピック・パラリンピック教育の「二小2020レガシー」を大切にした「体力向上」と「障がいやジェンダー、LGDTQなど多様性理解」の推進			
評価項目（目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
児童調査で「すすんで運動している」の項目の肯定的評価を80%以上にする。	3	肯定的評価が81.2%と目標を達成した。季節を問わず、休み時間に校庭で遊ぶ児童が多い。	B	・児童、教員どちらも休み時間に「外に出る」、「外に出ない」の2極化が見られる。遊んでくれるとありがたい。 ・休み時間など短時間でも外に出て体を動かすことが体力向上に必要。毎日の積み重ねを大切にしてほしい。 ・自己評価は適切である。
縄跳び月間や持久走月間等、全校で運動習慣定着の取組を年2回以上設定する。	3	縄跳び月間、持久走月間以外にも体育の授業改善、体力強化に向けた取組の充実を図る。	B	
障がいやジェンダーなど多様性に対する理解を促す取組を年2回以上実施する。	3	ジェンダーに関する講話、本の紹介（2回）障がい理解教育（4年総合的な学習の時間）	B	
評価のまとめ	○季節に関係なく外遊びを楽しんでいる。 ○教員も積極的に外に出て児童と関わり、良好な関係を構築したり、児童理解を深めたりしている。 ○1学期よりも怪我が減っている。　○学級閉鎖が短期間で済んだ。			

（4）家庭や地域との連携

重点目標	○人権を尊重し自己有用感を高める取組を家庭・地域と連携して行う。 ○教育活動の情報発信を工夫し、保護者や地域への理解促進を図る。			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
人権を尊重し、自己有用感を育てる取組を「ひまわり」の栽培を通して行い、肯定的評価を80%以上にする。	4	児童会を中心に主体的にひまわりの栽培活動に参加し、7つの関係施設に渡すことで地域との交流を深めた。	A	・発信の工夫は大いに見られた。LINE配信の活用で隙間時間にも学校の教育活動を把握することができるようになった。 ・学校公開の案内等を自治会にも知らせてほしい。 ・校長が様々な地域活動に出向き、交流していたことが地域と学校をつなげることに役立っていた。 ・自己評価は適切である。
保護者調査で「学校が教育活動の様子を適切に提供している」の項目の肯定的評価を90%以上にする。	4	肯定的評価が92%であった。 学校HP、学校・学年・学級だより、PTCAだより、青少協などで積極的に発信した。	A	
地域学校協働活動または地域行事を年3回以上行い、地域と共にある学校づくりを目指して、地域との連携を深める。	4	地域学校協働活動を 5 回実施。（パネル展、正月飾り、絵手紙） 地域行事は 3 回実施。（星空映画会、地域運動会、どんど焼き）	A	
評価のまとめ	○ひまわりプロジェクトは定着と広がりが見られ、児童主体の活動となった。 ○学級だよりは通常学級の全学級が発行し、学級の様子が伝わるよう努めた。 ○地域行事の復活に伴い、地域との連携の強化、活気を取り戻した。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

＜次年度に向けた学校経営の方向性＞
・３学期制から２学期制に滞りなく移行できるよう教育内容を精査し、より質の高い教育を提供する。
・教師主体の「授業」から児童主体の「学び」へと授業改善を図る。
・教科担任制を段階的に導入していく。
・「二小にこにこひまわりプロジェクト」を児童会活動に位置付け、児童の思いを形にし、継続できるように支援する。
・通常学級と特別支援学級「にじ組」の交流及び共同学習を継続し、双方にとってより効果的な関わりができるよう検証し、推進する。
・電話対応時間を決めたこと以外にも働き方改革につながる手立てを模索し、実行する。
・今年度同様、学校運営協議会と連携し、学校経営を行う。

＜課題＞
・算数科の基礎学力の定着が課題である。
　よく分かり、楽しみながら力が付く算数科の授業改善を目指し校内研究を行う。

以上のとおり報告いたします。

令和6年2月8日　　多摩第二小学校　校長　井戸　しのぶ

公印

令和5年度　学校評価書

多摩市立多摩第二小学校